

逢坂



人・自然と豊かに関わる子どもの育成  
よく考える子ども  
思いやりのある子ども  
たくましい子ども  
めざす学校像；笑顔あふれる学校

## 充実した夏休みとなりますように



1学期がまもなく終了します。コロナが第5類に移行となり、リレーフェスティバルや音楽会をたくさんの保護者の方に参観していただくことができました。子どもたちも学習の励みになりました。ありがとうございました。まもなく42日間の長い夏休みに入ります。今年の夏は暑くなりそうで、徐々に熱中症の危険も高まっています。また、各地で水難事故のニュースも聞こえてきます。夏休みにしかできない素敵な経験ができることを願いつつ、9月1日には子どもたち全員が元気な笑顔で登校してくれることを願っています。1学期間、本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございました。2学期もよろしくお願いいたします。

### 9月の行事予定

※予定の変更がある場合は学年通信でお知らせします。

1	金	登校指導 始業式 避難訓練 特別3校時日課(11:15下校)	12	火	ブックママ・パパ
4	月	特別3校時日課(11:15下校)	15	金	登校指導 学習参観
5	火	給食開始 5校時日課	18	月	敬老の日(祝日)
6	水	ロング昼休みなし	19	火	食育の日
7	木	5校時日課	22	金	6年生移動教室(AM)
8	金	5校時日課	23	土	秋分の日(祝日)
11	月	委員会活動	25	月	クラブ活動
			27	水	下校指導

### 2学期の主な学校行事、校外学習について

\*9月は上記のとおりです。

- 10月14日(土)運動会：予備日18日(水)
- 10月16日(月)運動会振替休日
- 10月26日(木)～27日(金)4年生ふるさと体験学習(1泊2日)
- 10月31日(火)全校5校時日課(大津市主催の研究会開催のため)
- 11月8日(水)2年生校外学習
- 11月9日(木)～10日(金)6年生修学旅行(1泊2日)
- 11月12日(日)逢坂子どもまつり
- 11月14日(火)1年生校外学習⇒地域回覧の学校だよりでは1日(水)となっておりますが変更になりました。
- 11月15日(水)学習参観日
- 11月21日(火)～22日(水)5年生フロティングスクール第79航海
- 11月24日(金)～25日(土)5年生フロティングスクール第80航海【27日(月)振替休日】
- 12月21日(木)学期末懇談会
- 12月22日(金)終業式



## 学校閉校期間および休日等の緊急時における連絡先

8月5日(土)～16日(水)の学校閉校期間および休日等の緊急時の連絡先は下記の通りです。

①学校閉校期間；市役所代表電話（TEL 077-523-1234）

②土日祝日、平日の夜間・早朝等；市役所代表電話（TEL 077-523-1234）

なお、児童が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、学校への連絡は不要です。

※不審者に遭遇した場合は警察に通報してください。

### **校長室から** おばあちゃんの言い聞かせ

人は良いことをされるとお礼をしたくなります。嫌なことをされるとやり返したくなります。これが心理学における「返報性(へんぼうせい)の原理」です。「情けは人のためならず」(人への情けは自分に返ってくる)という格言は、この原理から来ています。返報性の原理は4パターンあります。

**好意の返報性** 相手から何らかの好意や親切を受けると、そのお返しやお礼をしたくなる

**敵意の返報性** 相手から敵意を向けられたとき、同じように敵意を返したくなる

**譲歩の返報性** 相手が譲歩してくれたから、今度は自分が譲ろう、という思いになる

**自己開示の返報性** 相手が先に本心を開示してくれたら自分も心を開いて接したい思いになる  
一方、以前も紹介しましたが、

**善因善果** (ぜんいんぜんか)：善い行いの種をまけば、善い結果になり、

**悪因悪果** (あくいんあくか)：悪い行いの種をまけば、悪い結果となる。

**自因自果** (じいんじか)：自らが蒔いた行いの種は、自らにふりかかる。

これは紀元前に生きた釈迦の教えのひとつ、「因果の法則」です。一切のものは何らかの原因から生ずる結果であり、原因がなくては何ものも生じない。「因」は、自分の行為。「果」は、ふりかかる結果。善いことをすれば善い結果が返ってくる。悪いことをすれば悪い結果が返ってくる。自分の行いはすべて自分に返ってくる。

返報性の原理も因果の法則も、対人関係に関しては同じことを言っています。紀元前からこのことに気づいている人がいて、今や心理学で裏付けされた人間の心理＝真理なのです。我が国で古来より息づく文化の影響か、昔の人は心理学など知らなくても次のような説教をされました。

「あんたが言ったりやったりしたことはなあ、回り回って全部、自分に返ってくるんやで。」

「損して得取れ。人にしてあげることが損なことでも、何か善いことに変わって返ってくる。」

「ならぬ堪忍するが堪忍。人に腹が立っても、ぐっと我慢をせんかったら、言い返し、やり返しばかりでいつまでも怒ってなあかん。」

「誰も見てなくても善いと思うことはするねん。これだけやってあげているのにお返しがないと思うたらあかん。お天道さん(※太陽のこと)も、婆ちゃんも、あんたを必ずどこから見てる。」  
いずれも、悪ガキだった私が、今は亡き祖母からよく言われていたことばです。こうした『言い聞かせ』が少しずつ子どもの心に染み入って、いつしか「善く生きたい」という大まかな生きる方向性と、「誰か(なにか)が見てくれている」という畏怖の念や人への信頼感を抱かせることになるのではないのでしょうか。

「あんた、ちょっとここ座り！」からはじまるおばあちゃんの、「叱る」ではない『言い聞かせ』。大人が子どものことを心配して真剣に言い聞かせる機会は、今もしっかりとあるでしょうか？ 私たちもおばあちゃんのように、必要なときには子どもにしっかり言い聞かせをすることが大切だと思うのです。